

第2回精華町学校給食基本構想検討会議 会議録

名 称	精華町学校給食基本構想検討会議[第2回]	
開催年月日	平成29年11月14日(火) 午後3時30分～午後5時00分	
開催場所	精華町役場 2階 第201会議室	
出席者名	構成員	(出席構成員) 松井元子、岩井三郎、円山早智子、中川茂成、仲ゆか、尾野久美子、 波尻寛之、安倉敏代、谷村恵巳子、森田理恵、高橋幸子、木村操
	事務局	(事務局) 岩崎教育部長、北澤総括指導主事、竹島学校教育課長 山崎学校教育課主幹、下田管理栄養士
傍聴人	3人	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・精華町学校給食基本構想(案) ・学校給食基本構想検討会議名簿 	
議事の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 精華町学校給食基本構想(案)について (2) 意見交換 3 その他 <ul style="list-style-type: none"> ・第3回検討会議の開催日時の確認⇒来年3月頃 4 閉会 	
会議の経過	別紙のとおり	

【第1回 懇談経過】

1. 開会

- ① 教育部長の挨拶を行った。
- ② 議事録の公開、および委員会の公開の確認を行った。

2. 協議

配布資料についての説明を事務局から行った。

1. キャッチフレーズについて

○岩井構成員

5年後や10年後に食に関する状況が変わる可能性があるため、柔軟性を持ってキャッチフレーズを選ぶ必要がある。時代にあった言葉を選択してもらって、適切に住民に周知してもらいたい。

「健康」のキーワードがあるとよい。

「精華町らしさ」がわからない。「らしさ」ではなく、「精華町の食育」としてはどうか。

2. 給食センターについて

○中川構成員

給食センターがスタートするまで4年程度かかるが、1年目の建設協議はいつスタートするのか。

⇒小学校5校に平成30年度から空調設備を整備する予定である。ただし、財源の見通しが立っていない。財源が確保できれば、来年度になる。給食センターは空調設備の整備が終わった平成31年度から財源の確保ができ次第、着手する。

○中川構成員

災害拠点とするとあるが、素晴らしい考えだと思う。ただ、災害拠点とする場合は基準の施設だけでは厳しいのではないかと。給食センターの2階にランチルームを整備し、災害時にそこで避難して食事をとれるようにするとしてどうか。

⇒建築設計については未定の段階であるが、小グループで入っていただく会議室は想定している。試食などもできればしたいという想いはある。

○中川構成員

先般、生駒で給食の異物混入があった。防止の点からも、調理場を見学できる工夫があるとよい。

⇒調理場の見学については内部でも話が出ている。

○中川構成員

都市ガスは安いですが、災害時の復旧が大変である。となると、プロパンガスは割高ですが、すぐに復旧できる。災害拠点を謳うのであれば、部分的にLPガスが使えるようにしておく必要がある。また、自家発電できるような電気設備にしておく配慮も必要である。当然、日々の給食が安全安心でおいしいことが前提である。総合的に考えて予算の範囲で工夫をいただきたい。

⇒精華中学校の建て替えの際に災害時を考慮し、LPガスを整備している。給食センターでも災害時に備えることができるよう、必要な機能として行きたい。

○岩井構成員

消防庁舎の建て替えにあたって複数の省庁から補助金を確保したと聞いている。この給食センターの予算確保の面でも、工夫した予算措置を期待している。

3. 食品の安全性について

○岩井構成員

食材だけの安全安心だけでなく、人為的な安全も考慮する必要もある。

○岩井構成員

地場産の推進も重要であるが、一定の安全基準を設定して、それを満たす生産者を募る方向も考える必要があるのではないか。小学校給食と中学校給食では違いはあるが、学校給食で利用する地場産農産物の安全基準を定めてはどうか。

○中川構成員

他の市町では学校給食専用の栽培米を生産してもらっている。精華町でも、その田畑を決めて作ってもらってはどうか。

⇒精華町でも地元産米を供給しており、通学路に面した田圃のいくつかでPRをしている。

4. 学校給食について

○円山構成員

精華南中学校の生徒が育てた米とサツマイモを使用し、地域ボランティアとカルシウムを意識した調理実習を行った。実際の調理に不慣れな子ども達も多く、良い食育の機会となった。給食からも食育について多くを学んでほしいし、それがさらに家庭へと広がってほしい。

○安倉構成員

中学校での時間割の見直しが必要となってくる。給食が開始されてもお弁当の日を設けるなど、工夫をしていきたい。

○谷村構成員

給食の実施にあたって、安全にだれもが教室で食べられる給食を目指さなければならない。配膳は各学校での対応となるため、その点での衛生面の確保が課題である。

○森田構成員

小学校から中学校へ「つながっていく」、「つなげていく」がキーワードではないだろうか。

精華町のお米を学校給食に利用している。精米は学校給食会で実施してもらうことで異物混入を防いでいる。

小学校から中学校までの9年間がつながった食育により、自立した食生活を実施できる子どもが育つとよい。

○木村構成員

保育所はサンプルケースを置いて保護者が確認できるようにしている。

中学校給食の実施により、給食でおいしいと感じたものを中学生が家庭で作るようになるとうい。

○高橋構成員

食育において給食の果たす役割が大きい。精華町の第3次基本方針では給食の位置づけを重視している。今後も協力をお願いしたい。

○仲構成員

保護者としては、安全・安心でおいしいが一番に願うところである。

食べることのありがたみ、食べること、生きることの大切さを中学校給食を通じて学んでほしい。

防災拠点も重要だと思うが、第一には中学校給食を重視していただきたい。

○尾野構成員

給食センターの建設にあたって、これだけ多くの人に関わっていることを知った。小学校、中学校の保護者の方に、このような会議の存在や、学校給食の実施に向けて多くの方が関わって動いていることを知ってもらいたい。

○波尻構成員

基本目標3について精華町らしい学校給食という点では精華町の宝としての学校給食となればよい。

5. 食育について

○中川構成員

次回の委員会では、食育基本法を資料として提供していただきたい。

○中川構成員

食育は子どもの時にしっかりと食べることの大切さを学び、自分の体にあったものを選ぶ力を身につけるためのものである。そのため、学校の教育活動すべてが食育に結びついてくる。

○中川構成員

国から京都府内で小学校2校ぐらいは食育に関する指定を受けられる。精華町も指定を受けて、パイロット校として精華町のモデルを作って取り組んでもらいたい。

○波尻構成員

安全・安心でおいしい学校給食として府内の学校給食研究会にて報告予定である。

4. その他

基本構想(案)の修正は座長と事務局に調整を一任し、年明けにパブリックコメントを実施予定である。

次回の審議会は来年3月中旬を予定している。調整の上、連絡させていただく。

5. 閉会

教育部長より閉会の挨拶を行った。